次の50年に向けて、ものづくりの灯を永遠に

日本近代製鉄の父・大島高任が心血を注いだ洋式高炉による初出銑から満150年を迎えた2008年。（社）日本鉄鋼連盟は2月7日に行われた記者発表会を皮切りに、約1年間にわたり記念事業を全国各地で展開してきた。今回は、昨年12月1日・鉄の記念日に、記念事業の締めくくりとして開催された講演会、式典およびパーティーの様子と、記念事業の連携イベントとして全国各地で行われた「たたら製鉄実験」の様子を紹介する。

150周年記念事業を締めくくる講演会・式典・パーティーを開催

2008年12月1日、帝国ホテル（東京都千代田区）にて、近代製鉄発祥150周年記念事業を締めくくる記念講演会、記念式典、パーティーが行われた。

記念講演会では、（財）平成基礎科学財団理事長（東京大学特別栄誉教授）でノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊氏が「創る」をテーマに講演。記念式典は麻生太郎内閣総理大臣、二階俊博経済産業大臣、御手洗冨士夫経団連会長をはじめ大学、鉄鋼業界の関係者など約490名を招いて行われた。宗岡正二日本鉄鋼連盟会長（当社社長）が「鉄鋼業は日本の近代化・社会の発展に大きな役割を果たしてきました。この1年間の事業を通して、鉄をより身近に感じて、鉄の魅力を体感していただけたら幸いに存じます。また次の50年に向けて、日本鉄鋼業は新たな一歩を踏み出します」とあいさつを述べ、麻生総理や御手洗経団連会長から祝辞をいただいた。

式典に続いて行われたパーティーには、安倍晋三元総理ら政界関係者や、青木哲日本自動車工業会会長をはじめとする各産業界の代表、記念事業の広報大使を務めた石井竜也氏、米村でんじろう氏、鉄鋼関係者など約940名が出席。大島高任のひ孫である大島夏江さん、玄孫（やしゃご）の輝洋さんと、150周年を記念して「鐵」の文字を揮毫した高橋卓也くんに記念品が贈呈された。

鉄鋼連盟幹部一同

麻生 太郎 内閣総理大臣

近代の日本の歩みは鉄鋼業と重なり合うところが多く、鉄は経済復興、そして経済成長へとつながる原動力となりました。これからの日本は新たな成長モデルを構築する必要があります。150年間幾度となく試練を乗り越えてきた鉄鋼業に期待しています。

御手洗 冨士夫 経団連会長

150年間の日本鉄鋼業発展の道筋は、日本の発展の道筋だったと言っても過言ではありません。ものづくりの遺伝子は脈々と引き継がれていることと思います。たゆみない技術開発と経営努力で、今日の繁栄を導いた鉄鋼業に敬意を表します。

小柴昌俊氏による記念講演

パーティーにて。右から大島夏江さん、輝洋さん、高橋卓也くん

高橋卓也くんの作品『鐵』

近代製鉄発祥150周年記念事業連携イベント

川崎市市民ミュージアムで「たたら製鉄体験イベント」を開催

これまで科学技術館（東京都）で実施してきた「たたら製鉄実験」。いろいろな地域の子どもたちにたたらを体験してもらおうと、今回は川崎市市民ミュージアム（神奈川県）での開催となった。

2008年11月16日、神奈川県川崎市市民ミュージアムで、（社）日本鉄鋼連盟と（財）日本科学技術振興財団（科学技術館）主催による「たたら製鉄体験イベント」が行われた。

日本鉄鋼連盟では、2006年度より「鉄鋼業の社会的認知度向上」を最重要活動項目の一つとして掲げ、小中学生などを対象に、ものづくり・鉄づくりの重要性を一層理解してもらうための「ものづくり教育」を実施しており、その一環として科学技術館（東京）でたたら製鉄実験を行ってきた。今回は、いろいろな地域の子どもたちにたたらを体験してもらうことを目的に同ミュージアムでの開催となった。

たたら製鉄とは、砂鉄を原料に、ふいごと呼ばれる送風装置を使って木炭を燃やし、鉄を作る日本古来の製鉄方法。これまでのたたら製鉄実験では電動の簡易送風装置を用いたが、今回は足踏みふいごを1基用意した。参加者は二手に分かれ交代でふいごを踏み続け、より本来のたたら製鉄に近い操業を体験した。事前に行われた製鉄所見学（JFEスチール（株）東日本製鉄所京浜地区）と学習会に参加した親子20組40名の参加者は、熱心に操業に取り組んでいた。

午後には阿部孝夫川崎市長、近代製鉄発祥150周年記念事業広報大使の石井竜也氏も訪れた。阿部市長は「川崎は製鉄において重要な役割を果たしてきた都市です。たたら製鉄実験をきっかけに、製鉄の歴史を知り、日本の鉄鋼業が世界において果たす役割などについて考えていただけたらと思います」とあいさつを述べた。

また、参加した子どもたちに、石井氏がデザインした近代製鉄発祥150周年記念イメージキャラクター「AIRA（アイラ）」の携帯ストラップと、イメージソング『AIRAの大地』のCDが石井氏本人からプレゼントされた。

足踏みふいご。シーソーのように両端に分かれ、交互に力強く踏み込み炉に風を送る

組み上げた炉から真っ赤な炎が見える

木炭装入を手伝う宗岡鉄鋼連盟会長と石井氏

阿部川崎市長のあいさつ

参加した子どもたちにプレゼントを渡す石井氏

ミュージアムの中庭に展示されている「トーマス転炉」。1937年にNKK（現JFE）が導入。2007年に国の近代化産業遺産に認定された

たたら製鉄の感動を親子で分かち合える貴重な体験

—鐵矢工業（株）代表取締役
鐵矢 匡生氏

今回、指導スタッフとして初めて参加しました。たたら製鉄は技術的な面白さもありますが、たたらの歴史を振り返ることで、鉄についての世界観が広がります。二人の息子も、本当に楽しみながら実験に参加していました。

「トーマス転炉」の前で、鐵矢氏と息子の匡彦くんと竜太くん

ものづくりの大切さを伝えていく役割を深く認識

—川崎市市民ミュージアム館長
志賀 健二郎氏

工業で栄えてきた川崎市にあるミュージアムとして、当館にはものづくりの大切さを伝えていく役割があると認識しています。鉄鋼連盟、科学技術館ならびに関係者の協力を得て未来を担う子どもたちに、ものづくりの楽しさや達成感を得られる場を提供できたことをうれしく思います。

全国各地でたたらを実施

釜石製鉄所

釜石製鉄所では7月26日、近代製鉄発祥150周年記念事業の一環として、昨年度に引き続き「鉄のものづくり体験会」を実施した。

8月7日には「鉄のまちこどもサミット in 釜石」が開かれ、神奈川県横浜市の小中学生が来訪。釜石に残る近代製鉄発祥に関する遺産群の見学や、たたら製鉄体験を通じて身近にある“鉄”について関心を高めた。

8月12日には、今後の釜石地域の発展を担う人材育成を目的に少年リーダーキャンプを実施。市内の小中学校から集まった約20名が、鉄づくりやキャンプを体験し、ものづくりの精神や郷土の歴史への理解を深めた。

広畑製鉄所

広畑製鉄所では、「播磨の鉄の歴史と、鉄の魅力」を地元の小学生に理解してもらおうと、2006年からたたら製鉄実験を行っている。

10月2日、姫路市立広畑第二小学校の5年生148名を同所に招き、たたら製鉄の実演と同時に熱延工場などの見学を行い、現代の製鉄技術への理解も深めてもらった。たたら製鉄実験では、子どもたちは炉の組み立てと、真っ赤な鉄をハンマーで打つ“鍛冶屋”を体験した後、ノロ（不純物）出しとケラ出しを見学。炉からケラが現れると歓声を上げていた。

名古屋製鉄所

名古屋製鉄所は11月8、9日に開催された「東海秋まつり」において、たたら製鉄実験を行った。

名古屋製鉄所と協力会社の有志が作る「東海たたらの会」の指導により、2基の炉を製作。1基はスタッフ系新入社員が、もう1基は東海市立青少年センター主催の「青少年いきいき体験事業」に参加する中学生から大学生までの8名が実演にあたった。参加者たちは、普段学校でできない体験に目を輝かせていた。

会場となった製鉄公園には延べ12万人が来場したが、炉の周りにも大勢の人が集まり、真っ赤なノロが流れ出る様子や炉から現れた約10kgのケラに歓声と拍手がわき起こっていた。

北九州―第7回 たたらサミット IN 北九州・東田市民たたら

「NPOものづくり教育たたら（※）」主催による「第7回たたらサミット IN 北九州」と、通算7回目となる「東田市民たたら」が、11月28～30日、北九州市八幡東地区の北九州イノベーションギャラリーと東田高炉史跡広場で開催された。

初日は、全国から集まった高校・大学など5団体による「たたら競演会」が行われ、各団体とも工夫を凝らした操業を展開し、互いの技能を高め合った。

2日目は、NPOものづくり教育たたら理事長の永田和宏氏（東京工業大学教授）らによるシンポジウムが行われた。

最終日は、たたら研修会と東田市民たたらが行われ、参加した親子40名は11基のたたら炉を取り囲み、熱心に操業に取り組んでいた。

28日に行われた、たたら操業（写真は高知工房くろがね、宿毛工業高校による操業の様子）と講演する永田氏

※ NPO 法人 ものづくり教育たたらについての詳細はこちら ―――― http://www.tatara.or.jp